

日本医学会分科会活動報告

学会名(No. 28 ) 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会

代表者名 理事長 大森孝一

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

- 会員の生涯教育に資するため、総会・学術講演会を毎年開催している。
- 専門医、専攻医等の知識、技術、意欲等の維持向上を図るため、秋季大会を毎年開催している。
- 若手研究者を育成するとともに、耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の医学・医療の一層の発展を図ることを目的とする「日耳鼻研究奨励賞」について、毎年、総会・学術講演会で表彰している。
- 会員の海外留学を推進、支援することを目的として、海外留学支援制度を令和5年度に設立し、15名の若手会員に助成を行った。

b. 当該領域における国際的な役割

- 日本での活動や業績を広く世界に発信するため、日本耳鼻咽喉科学会ならびに関連学会、関連ジャーナルの国内外における活動状況をまとめた Bulletin を令和2年から発刊し、IFOSをはじめとする国際機関、各国耳鼻咽喉科学会に配信している。
- 16th Asia Oceania ORL-HNS Congress を2027年3月23日(火)～26日(金)に国立京都国際会館で開催する。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

- 女性医師の地位向上および働き甲斐等、男女共同参画の促進に寄与することを目的として、令和2年度に創設された「輝く耳鼻咽喉科女性賞」について、毎年、総会・学術講演会で表彰している。
- 医育機関における教育・研修・指導の一層の向上および発展に寄与することを目的として、令和2年度に創設された「耳鼻咽喉科教育・育成功労賞」について、毎年、総会・学術講演会で表彰している。
- 医師の働き方改革、男女共同参画の一層の進展を図るため、医育機関における子育て支援対策を奨励することを目的に、「子育て支援賞」が令和5年度に創設され、総会・学術講演会で表彰した。

d.学会運営上留意している点

- 令和2年4月に設立された日本臨床耳鼻咽喉科医会との連携を密にするため、委員会委員長・委員について両組織から選出することや、両組織に関連する課題等について議論するため学会・医会連携会議を設け定期的に開催している。
- 喫緊に取り組むべき課題として①専攻医・専門医の教育と育成、②診療拡大と診療改革、③新規医療の開発と実用化を目標と定め、令和4年度に15ワーキンググループを立ち上げ活動している。
- アフターコロナに向けて、学会と臨床医会が取り組むべき中長期的な課題と目標として、15項目からなる「耳鼻咽喉科頭頸部外科医療の未来プラン」を策定した。

II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。

- 2023年度日本医学会連合TEAM事業「加齢性難聴の啓発に基づく健康寿命延伸事業」を6学会および1協会と連携して実施している。
- 2024年度日本医学会連合TEAM事業「いつまでも健康で美味しく食べる」ための、多学会連携による嚥下障害対策の普及活動」を9学会および1協会と連携して実施している。
- 日本眼科学会と共同で、日本学術会議臨床医学委員会感覚器分科会主催「市民公開講座コロナ禍での感覚器障害のリスク（Web開催）」を令和4年1月25日開催した。また、令和6年度についても共同開催することとしている。
- リハビリテーション医学・医療分野の関係団体との連携を図り、耳鼻咽喉科領域における医学・医療教育の発展のために、日本リハビリテーション医学教育推進機構へ入会している。
- 日本リハビリテーション医学教育推進機構、日本言語聴覚士協会、日本理学療法士協会、日本リハビリテーション医学会と共同監修のもと、「耳鼻咽喉科頭頸部外科領域のリハビリテーション医学・医療テキスト」を令和4年5月に刊行した。